



AIYES 通信

横浜スペイン協会会報

発行・横浜スペイン協会事務局 鎌倉市大船 1709-18 FAX 0467-44-5876

横浜スペイン協会創立 25周年記念号 vol.3



スペイン大使館でのピアノとワインの夕べ
横浜スペイン協会 創立25周年記念イベント
2016.1.22



横浜スペイン協会創立 25 周年記念イベント第 4 段

西澤安澄さん、スペイン大使館コンサート

-----ピアノとワインの夕べ-----

2016 年 1 月 22 日於：スペイン大使館オーデトリウム

六本木通りから、瀟洒な高級マンションに囲まれた緩やかな小道の坂を上がって少し歩くと、静かで落ち着いた雰囲気歴史を感じさせるエントランスに遭遇します。そう、ここは横浜スペイン協会創立 25 周年記念コンサートの会場であるスペイン大使館。

今回は大使館地下のオードトリウムをお借りしての、西澤安澄さんのピアノコンサートです。多くの出席者にとっては大使館と言う非日常的な空間。ワクワク、ドキドキ期待を膨らませながら興味深々にモダンな地下会場へのスロープを歩かれている皆様の姿がとても印象的でした。

さて、第 1 部のコンサートでは、冒頭に当協会の名誉会長でもある、ベニート大使閣下より心温まるお祝いの言葉に続き、山崎会長からのご挨拶の後、演奏が始まりました。今回の演奏曲はスペインの偉大な作曲家グラナドス、ファリャの曲を中心に 7 曲演奏されました。(下記参照)

- ① グラナドス スペイン舞曲 5 番 アンダルーサ
- ② ファリャ 粉屋の踊り
- ③ ショパン 別れの曲
- ④ グラナドス ゴイエスカスより 美女と鶯
- ⑤ グラナドス 同上 藁人形
- ⑥ ファリャ 組曲 恋は魔術師
- ⑦ アンコール：ショパンのワルツ

安澄さんの力強く情熱的な迫りに満ちたピアノ演奏はグランドピアノを通して会場に心地よい音色を響きわたらせ、出席者全員に大きな感動を与え、また軽妙な曲紹介のトークはスペイン音楽を私たちにより身近なものにさせてくれるものでした。盛大な賞讃の拍手が鳴りやまない中、アンコール曲は終わり、コンサートの感動の余韻を残しつつ、引き続き隣室でのレセプションパーティとなりました。第 2 部はサンティアゴ文化参事官の乾杯の挨拶、ご発声でスタートし、華やかな雰囲気の中で美味しいスペインカバ、ワイン、綺麗に並べられた数々のピンチョスを頂き、会員を始めとする参加者の方々とのお話も弾み、和気あいあいと懇親を深める事が出来ました。会場には和服、煌びやかなドレスをお召された方々も何人かいらっしゃり、更にレセプションを華やかなものにして場を盛り上げて頂きました。

今回のコンサートは会員を中心に 90 名以上の方々に御来場頂きまして、横浜スペイン協会創立 25 周年記念イベントの第 4 段、最後を飾るに相応しい最高に優雅で華やかなコンサートが開催出来ました事を大変嬉しく思っております。

最後になりますが、ベニート大使閣下を始めとして、スペイン大使館の皆様、素晴らしいピアノをご提供頂いたヤマハ様、そして美味しいスペインワインと料理をご提供頂きましたスペインクラブ様の絶大なるご支援にお礼を申し上げます。皆様、本当にありがとうございました！

次は、協会創立 30 周年に向けて、更なる協会の発展を目指して皆様と共に会を盛り上げて行きたいと考えておりますので、今後とも、どうぞ宜しくお願い致します！（下山利明）

横浜スペイン協会 25 周年記念レセプションにおける

ゴンサロ・デ・ベニート駐日スペイン大使のご挨拶

本日、当大使館オーデトリウムに皆様をお迎えする事ができ、光栄に思っております。この度は「横浜スペイン協会」25 周年記念のお祝いのためにこの会場を選んで頂きましてありがとうございます。

本会場はスペイン文化普及のために使用しており、これまでスペインと関わりを持つた皆さんのアーティストや学者などの方々がさまざまな文化事業のために利用して参りました。本会場で今回の記念レセプションを企画されました山崎宗城会長をはじめとする関係者の皆様方にも御礼申し上げます。

横浜スペイン協会と当大使館のお付き合いはとても長く、前任の大使からもその積極的なご活躍については話を伺っております。以前、貴協会から大使公邸庭園に桜の木が贈呈されましたが、お陰様で毎年きれいな花を咲かせております。日本とスペインは地理的には遠く離れておりますが、日本の皆様の関心が非常に高く頻繁に渡西戴いております故に、その距離が短縮されているよう錯覚を抱くほどです。昨年は、横浜スペイン協会からお招きを受け、横浜を訪問し、会員の皆様のご活躍を身近で見ることができました。

25 周年という大事な節目のお祝いに、貴協会会員の西澤安澄様のピアノ・コンサートの演奏が企画されたことはとても素晴らしいことだと思います。西澤様は以前にこの大使館で2 回ほど演奏会を行っております。長年スペインのグラナダに住まれております、2010 年にはファリャ作品のアルバムをリリースなさっています。また、日本スペイン交流 400 周年の記念年でありました 2014 年にはアルベニス作品のアルバムをリリースされ、記念事業の一環として演奏会も開いていただきました。

本日は皆様とお祝いすべきことは3 つあると思います。一つ目はもちろん、横浜スペイン協会の 25 周年記念。二つ目は、西澤安澄様がこの会場で再び演奏していただきますこと。そして三つ目は、今年 10 月からスペインのイベリア航空が東京ーマドリード間を結ぶ直行便を運航することです。成田空港を中心に、週 3 便でスタートしますが、順調に進めば毎日 1 便に増やす計画もあるそうです。これにより、日本とスペインの間が更に移動しやすくなると思われます。

最後に、本日は当大使館に横浜スペイン協会会員の皆様方を始め大勢の方にご出席いただきましたことを感謝申し上げます。

改めまして、横浜スペイン協会の 25 周年記念、本当におめでとうございます。



「スペイン大使館でのピアノとワインの夕べ」に参加して

♪ 創立 25 周年の記念行事の最後を飾った華やかなピアノコンサートの後にさらにおまけがついて演奏会場に隣接した場所でレセプションが提供される幸せを享受しました。ワインとピンチョスが出されて私が会場に入ったときはもう皆さんワイワイと楽しそうに歓談されており、会場の音響が今一つという事もあって折角の文化担当参事官のご挨拶や他のスピーチもほとんど聞き取れなかったようです。私はその場のスピーチでこの一年理事さんたちがいかに精力的に立派に記念行事を遂行なさってきたか、横浜スペイン協会がいかにユニークで素晴らしいかを訴えたかったのですが届かなかったかも知れませんね。でもそんなことより演奏者を交えた会場は世代交代の AIYES の頼もしい未来を感じさせました。(中村瑛子)



♪ 「えー！ スペイン大使館でピアノコンサートが聞け、あとでワインパーティーがある。行きたい！」というのが私の第一声です。大好きなスペインの日本の窓口である大使館に入れるのかと行く前からワクワクドキドキでした。大使館入館ではもっと厳しいセキュリティがあるのかなとドキドキしましたがスムーズに行き「ほっと」しました。ピアノコンサートはスペインの情熱的で激しい演奏とショパンの美しい音色・・・動と静の妙味が素敵でした。レセプション

でお話しした西澤安澄さんは舞台上で見るより小柄で、演奏中の安澄さんは躍動感溢れ、身体がとても大きく見えました。1月に入会したばかりの私があつましくも協会 25 周年の記念イベントに参加させていただき、このようなめったに経験できないイベントに参加できたのも、これまで協会をリードされてきた会長はじめ理事の方々の献身的な努力のおかげだと頭が下がりました。ありがとうございます。(星野信行)



♪ 今回の創立 25 周年記念イベントで楽しみにしていたことは、スペイン大使館の内部に入れることと西澤安澄さんのピアノ演奏でした。心のこもったゴンサロ・デ・ベニート駐日大使閣下のご挨拶、それに続く西澤安澄さんの演奏はグラナドスのいかにもスペインらしい楽曲とショパンの名曲との組み合わせで、その表現力の豊かさに大変感動しました。マヨルカの「風の家」にも行きたくなりました。パーティーではカラスミのピンチョスに出会い、後日調べてみるとカラスミは元々地中海沿岸で古代から食べられており後に東洋に伝わったことを知りました。事務方の皆さんの周到で配慮ある準備と進行、ご婦人たちのドレスアップした華やかな雰囲気、思い出に残る楽しいひとときとなりました。(川野辺幸夫)



♪ 横浜スペイン協会 25 周年記念を祝すパーティー&ピアノコンサートがスペイン大使館で行われました。スペインというと私は、『ドン・キホーテ』を思い出します。黒い扇子を持ち、真っ赤な衣裳で踊るキトリが情熱的です。情熱的といえば、スペインでご活躍されている西澤安澄さんが弾くピアノの曲も情熱的です。今回もまた美しい音色に

魅了されました。情熱的で美しい国、スペイン。本年度 10 月には成田からの直行便も出るそうです。ぜひ訪れて、その魅力に酔いしれたいです。25 周年記念おめでとうございます。(黒須 恵)

<コンサートで使用したピアノについて>

今回のコンサートには弊社グランドピアノ「S6B」を持ち込ませて頂きました。このピアノはサロンや小規模ホールで使用されるコンサート用グランドピアノで、「音楽が本来持つ温かい音色を引き出すピアノ」「表現へのこだわりに対して繊細に対応してくれるピアノ」等、多くのピアニストからご好評を頂いています。

当日は調律や調整の段階で会場の大きさや響きの印象で一番良いと思えるイメージに持っていくよう調整しました。演奏者が到着するまでにそのイメージを固めて準備しないといけない難しさもありましたが、終演後、スペイン音楽の第一人者でいらっしゃる西澤安澄さんからは「とても弾きやすかった」と、またご来場の方々からも素晴らしい音色だったとお褒めのお言葉を頂き大変嬉しく思いました。

今後も音楽を通じて、横浜スペイン協会様の文化振興事業のお手伝い如果可以と思います。協会ご関係者の皆様の、今後益々のご発展をお祈りしております。

株式会社ヤマハミュージックジャパン
大丸 和彦 (ピアノ技術者)



●旅でスペインを識ろう会

『2月渡邊昭夫様「スペイン～ぶらり・再会・二人旅」に参加して』

2016.2.8

個性的な深紅に輝くザクロの実、そして白い百合の花、大好きな植物ですがスペインの国旗の真ん中にそれらは描かれています。その由来とルーツを訪ねてスペイン旅行……。個人旅行やグループのツアーで出かけますが、このような渡辺さんの旅行スタイルには目から鱗でした。拍手喝采をささげたいと思います。薄っぺらな観光だけにとどまる旅行ではなく、その土地の人との交わりの中で味わう深みのある旅行、日本でガイドされた方を訪ね、スペインで再会、素晴らしい出会いの始まりを感じます。でもそれには日本でのおもてなしの心でのガイドがあり、その方たちとのそれまでのコミュニケーションがスペイン旅行につながっていると思います。再会するまでの熱い思



いといろいろなツールを使っただけのその方たちとのつながりを大切にしてきた結果だと思っています。旅はその土地の人に案内していただくのが一番です。土地の人たちだけしか知らない素敵な場所、おいしいレストラン等……。旅の夢もどんどん広がります。そして本当の意味での草の根国際交流があります。このような小さな交流が世界に広がっていくと平和な素晴らしい世界になるのではと夢はますます大きく膨らんでいきます。(山田早百合)

●スペイン語クラス

「新聞雑誌を読む会」特別授業

「Pequeña Introducción a Catalunya」—「カタルーニャ概要」

2016. 1. 23

セルバンテス文化センター講師・Orio Segu Subira氏（バルセロナ出身）をお迎えして、カタルーニャの今をお聞きしました。

なぜカタルーニャ独立への機運がこれまでよりも高まっているか？に関して先生は、最近の世論調査では、独立支持率が50%（5・6年前は25%）、不支持率も50%であるとおっしゃる。その要因として、① 経済的要因 ② 言語的要因 ③ 愛憎相半ばする感情があげられる。①はリーマンショック後の世界的な不景気の中でカタルーニャ州と他の州との経済的格差が大きくなったことがある。② el catalán（カタルーニャ語）への愛着とそれを使用することへのこだわりですが、それには次のような理由がある。el catalánは8～10世紀にラテン語から発展したものでフランス語の影響を受けている。ですからスペインの方言ではない。9～17世紀のバルセロナ辺境伯領時代



以来の複雑な歴史の中でカタルーニャの人々のアイデンティティーのよりどころとして脈々と話されてきた。19世紀半ばには産業が盛んになり、カタルーニャ分離（独立）主義、共和主義が生まれた。また1936～1939年の市民戦争以後はフランコ独裁政権下で困難な状況に置かれ、el catalánの使用が禁止されたが、家庭内で、また信頼を得られる相手との間では使われてきた。③「amor y odio：愛と憎しみが相半ばする感情」とは？ 詳しくはお聞きできませんでしたが、カタルーニャの人々には、スペインの国そして人々全体に対して、歴史的、政治的、経材的、地理的、文化的に味わってきたもろもろの感情があるのではないかと私は解釈しました。また、2002年に成立した

カタルーニャ自治州法 (Estatuto de Autonomía) をスペイン政府が認めなかったことも、この機運が高まる要因にもなっているのではないかと思います。

これからもカタルーニャの情勢の推移に接するとき、今回お聞きしたことが参考になり、問題が身近に感じられるようになると思います。(新聞、雑誌を読む会 松本益代)

スペイン語クラス・クラス委員会

3月7日(月)、第8回クラス委員会が開催されました。

クラス委員、講師及び会長や関係役員の18名が集い、2015年後期の各クラスの状況と来期に向けた抱負等を確認いたしました。

現在開講中の8クラスは受講生も増えそれぞれ特徴ある授業が進められております。講師の熱心なご指導により各クラスのレベルも上がる一方で、受講生の高齢化が少しずつ進んでおり、今後のスペイン語クラスの問題の一つでもあります。また今回は、3月末で退任されるアインゲル講師とビセンテ講師のお二人の送別会と4月から新任のカルメン講師(ベゴニャ講師はスペインに帰省中のため欠席)の歓迎会も併せて行なわれました。退任されるお二人の講師には7年にも亘りスペイン語学習とともにスペイン文化や歴史などを含め幅広く教えていただきました。AIYES 一同心から御礼申し上げますと共にお二人のご発展をお祈り申し上げます。

新任のカルメン講師、ベゴニャ講師にはまた違った形で「新しい風」を教室に吹き込んでいただきたいと思います。2016年度は全クラスが協力し、より一層楽しく活発なクラス作りをして行くことを確認したクラス委員会となりました。(VIOLETAクラス委員・谷本敬子)



***** 横浜スペイン協会新年親睦パーティー報告 *****

2月6日(土)、横浜スペイン協会創立25周年記念新年親睦パーティーが、KKRポートヒル横浜にて、開催されました。このホテルは「港の見える丘公園」の隣に位置し、大きく開いた窓からの港の景色がとてもきれいなホテルです。当日は、幸いお天気にも恵まれ、美

しい景色を背景に、参加者51名、盛大なパーティーを楽しむことができました。山崎会長の挨拶、

石井委員による乾杯に引き続き、buffet形式の美味しいお料理をいただきながら、しばし歓談です。一息ついたところで、新会員6名の紹介、そしてクラスメンバである、北見さんが、フラメンコを踊ってくださいました。あまりの素晴らしさ、美しさに、出るのはため息ばかりでした。“Guapa gracias”。

引き続き、ヒラソルクラスが、ヒラソル音頭を披露してくれました。日頃忙しい



方々が、クラス前に頑張って練習した成果です。そろいの赤い法被もかわいらしく、ほんの少しフラメンコテイストを入れた楽しい音頭で、会場を盛り上げてくれました。“Viva Girasol”

そしてお楽しみのビンゴは、Club2020のメンバーが仕切って、豪華景品(?)の争奪戦を行いました。会員でもあるピアニストの高木洋子さんが、ご自身のCDを2枚も賞品に追加してくださって、ますます盛り上がりました。



最後は、栗山先生の絶妙の解説、桜田理事の指導のもと、参加者みんなで、「クラベリートス」の大合唱、その後全員のダンスも入り大盛況のうちに親睦パーティーは終わりました。会の間中素敵演奏と歌を聞かせてくださった、キューバの演奏家カブラレスさんにも、“Muchas gracias”。

(古賀恵子)



●シネマサロン

Manuel De Oliveira (マノエル・ド・オリヴェイラ) (1908～2015)



昨年106歳で亡くなったポルトガルの映画監督について。

100歳の時に製作した「アンジェリカの微笑み」が昨年暮れに封切られました。私は1993年の「アブラハム溪谷」で初めてその存在を知りました。この中では、ドウロ川(スペインではドウエロ川)のほとりの旧家の物語を重厚に美しく描いていました。その後の作品には、「階段通りの人々」、「家路」、「メフィストの誘い」、「永遠の語り」、「昼顔」、「コロンブス 永遠の海」、「家族の灯り」などがあります。彼を心から信頼し参加した俳優たちは、ポルトガルはもとよりスペイン、フランスその他から、特にフランスのカトリーヌ・ドヌーブは常連でした。スペインの監督・Luis Buñuel(ルイス・ブニュエル：1900～1983)とは同世代でしたから、意識し合ったこともあったでしょう。それぞれの作風には大変な差がありましたが。

今夏以降に、渋谷「ユーススペース」で彼の追悼特集「永遠のオリヴェイラ・パート2」(1990～2000年代)が予定されています。

「創造と神秘のサグラダ・ファミリア」

「神は急いでおられない。焦らなくていい。」ーとのガウディーの言葉通り、建築にかかわる人々は誠実に作業を進めています。1936～1939年の市民戦争時にはガウディー肉筆の図面や彼の作った模型も燃えてしまいましたが、現在は飛行機設計者用に開発された3Dソフトを使い、彼の意図したイメージを把握し建設が進められ、彼の生誕100周年の2026年に完成される予定です。私は

1973年に工事用の木の梯子を登って当時の高さまで見学したことを思い出し、今の姿に隔世の感を持って再会した感じです。

主任彫刻家・外尾悦郎が el castellano を話し、アメリカ人建築家が英語で話す以外は、すべての人たちが el catalán でインタビューに答えていたことが強く印象に残りました。それほどにこの建築はバルセローナの、そしてカタルーニャの誇りなのだと思います。(松本益代)

●スペイン便り

アルハンブラの丘、ファリャの家の近所にあるロドリゲス・アコスタ(1878-1941)のアトリエがある。グラナダの大銀行家ファミリーに生まれ、情感豊かな静物画と女性の裸像に傑作を多く残した。若い頃は印象派風の絵で高く評価されていたが、20世紀に入り、新しい独自の道を求めて思索を重ねるも、当時の画壇からは評価されずにスランプに陥ってしまう。そこで数年絵から遠ざかり、インスピレーションを得るために自らデザインして作られたのがこの、宮殿ともいえる広大なアトリエだ。そこに寝室は一部屋も無い。趣向をこらした様々な庭と噴水。雫の落ちる角度、速さで、こんなにさまざまな音を愉しめるのだなあ。次の庭に足を踏み入



れると、違う世界に迷い込んだように思うは、各噴水の奏でる水の音楽が違うからなのかもしれない。アトリエの地下には、大昔から残っている延々と続く迷路となっており、画家も掘り進めるのを途中でやめたようだ。迷路の一角や壁にも画家の選んだ古代のレリーフなどが埋め込んであ

ると画家は作曲家ファリャと親しくしていて、ロドリゲス・アコスタへ捧げられたファリャのサイン入りの写真がある、と書籍を繰ってくれた。「あ！この写真は私のCD「ファリャ：ピアノ編曲集全集」に使った写真！確かパリで撮られたもので、『ファリャが優れたピアニストだったってことが、とてもよく伝わる写真だと思うので、是非これを使ってください』とファリャの遺族の方からいただいたの！」と興奮気味に話ると、案内してくれた方が「あ、パリで撮影って書いてありますね！！！」贅を凝らしつつ、無駄が一切無い、ストイックな威圧感さえ感じさせるアコスタとファリャの作風。新古典主義、ローマ帝国よりそのもっと昔の地中海文明のアルカイックな美を好んだところなども、もしかしたらこの二人、とてもとても、共通点があったのかもしれない。

(西澤安澄)



Fotografía de Manuel de Falla dedicada a José María Rodríguez-Acosta en 1939.

¡Éste éste éste!

スペイングルメの桃源郷「ボデガ スペインクラブ銀座」

今回は、先日のスペイン大使館でのピアノコンサート後のレセプションでケータリングをして頂いたスペインクラブの銀座店を訪問しました。

スペインクラブは、今年で20周年になるレストラン「月島スペインクラブ」をはじめ、門前仲町に「イベリコバル」、セルバンテス文化センターにレストラン「メゾン・セルバンテス」を経営されています。ここ「スペインクラブ銀座」は1階がバルとスペインのワインと食材を取り扱うボデガ、2階がレストランとなっています。



重厚な木の扉を開け中に入ると、壁面にびっしり並んだワインに圧倒されます。取り扱っているのは、スペイン産ワイン・カヴァなどが約400種。B0のある地域はほぼカバーしており、すべて社長はじめお店のスタッフが現地を周って買い付けてきたものだそうです。王室御用達のワインもありますが、小さな村の家族経営で生産量の少ないものの発掘にも力をいれているとのこと。スペインからのお客様もその品揃えにびっくりされるそうです。迷ったら専門知識豊富なお店のスタッフが相談にのってくれますし、試飲もあります。また、ほぼ毎月のように、現地の生産者が来店、直接お話をお伺いしながらワインとお料理を楽しむイベントが開催されています。

食材も豊富です。オリーブオイル、ハモンセラーノ、腸詰などはもちろん、マンチェゴはじめ「尼さんのおっばい」と親しまれているケソ・テティージャなどのチーズ類、ナバーラ産ホワイトアスパラの瓶詰、マスカットの干しブドウ、からすみ等々まさにスペイングルメファンには桃源郷状態です。

最後に、今日ご案内いただいたソムリエの常田さんにスペインワインの魅力をお聞きしましたところ、「1にコスパが良いこと。2. 飲みやすいこと。従って肩肘張らずワインを楽しめる。3. 多様・北から南と異なる気候や風土、あるいは地域ごとの気質の違いや歴史が多彩なワインやカヴァを生んでいる。そういった歴史や文化などに思いを馳せながら飲むワインも楽しいのでは」というお言葉をいただきました。銀座（古いですが）のメは、銀座スペインクラブでワインを！

<http://www.spainclub.jp/ginzashop/>

《Un poco información》



スペインクラブ様の特別のご配慮で当協会会員への特典として「ご来店いただいた方に、スペイン産チョコレート1つプレゼント」をご用意いただきました。会員証をお店スタッフにご提示ください。お店に行く楽しみが増えました。（臼井 慎一）

❀ 昨年の 25 周年記念植樹に訪れたレオンから嬉しいお便りが届きました ❀



2015. 09. 07



2016. 01. 26



写真を送ってくれた
Sonia Rodrigues さん
さくら便り待ってます！

※延期されておりました伊藤誠氏の講演が 6 月 11 日に決定しました。詳細はホームページをご覧ください

***** 事務局からのお知らせ *****

2015 年度は横浜スペイン協会創立 25 周年に当たり、4 月のサルスエラ公演に始まり 2016 年 1 月のスペイン大使館ピアノコンサートまで企画した行事をすべて成功裏に終えることができました。これもひとえに協会員全員のご協力の賜物とこの紙面を借りて御礼もうしあげます。2 月 6 日には新春親睦パーティーも盛大かつ無事に終えることができました。また、5 年後の 2020 年の東京五輪時には協会も 30 周年を迎えます。2016 年度以降もさらに皆様のご期待に添えるよう理事全員が頑張っていく所存です。ここで当面のお願いとご連絡を申し上げます。

① 2016 年度定時総会ご案内

日時：2016 年 5 月 15 日（日）PM12:30～13:30

場所：県民活動サポートセンター1503 号室

② 年会費お振込のお願い

年会費は 3000 円です。AIYES 通信に振込依頼票を同封しますのでお早めにお振込みください。よろしくお願いいたします。

***** 新会員紹介 *****

久谷 幸雄 (Kutani Yukio) 横浜市南区在住 2016 年 1 月入会

1991 年から 95 年まで 4 年間スペイン・バレンシアに駐在していました。これ以来スペイン・ファンになりました。しかし、スペイン語をしっかりと習ったことがないため、退職を機に勉強を始めました。なかなか上達しませんが頑張っていきたいと思っています。また、言葉だけでなくスペインの歴史や文化などについても勉強していきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

秋和 保 (Tamotsu Akiwa) 川崎市多摩区在住 2016年1月入会

初めまして秋和です。今年65歳、無職の年金生活者です。20歳で出会ったスペイン(語)との関わりを大切にしたいと、少しでもスペイン(語)の活動に参加したいと入会申し込みを致しました。よろしくお願ひいたします。

写真は今年サンタンデルで自撮りしたものです。

多島 眞須美 (Masumi Tajima) 横須賀市在住 2016年2月入会

昨年の横浜スペイン協会創立記念展に武菱邦夫様よりお誘いを受け油絵(ドン・キホーテの村)を出品致しました。スペイン旅行は主人と20年前行きましてスケッチブック片手に10日間の駆け足旅行でしたが日本にはない風景に心をうばわれ、楽しい旅行でした。今回スペイン協会に入会させて頂く事にしましたのでよろしくお願ひいたします。

中川 紀子 (Noriko Nakagawa) 川崎市麻生区在住 2016年3月入会

去年下山さんにスペイン料理教室をご紹介して頂いて以来、すっかりクッキングとワインに憑りつかれました。40年ほど前に訪れたバルセロナ・セビリアなど思い出しました。又機会があれば再訪したいと思ひます。宜しくお願ひ致します。

福田 薫 (Kaoru Hukuda) 横浜市港北区在住 2016年4月入会

2015年1月よりスペイン語のセラソクラスで山田先生の授業を受講しながら横浜スペイン協会の楽しい催しに参加させて頂いておひます。スペインの言葉や文化を学んでスペイン旅行すること、職場である観光案内所でスペイン語でご案内をすること、Club2020に参加してオリンピックの際にスペイン語を使ったボランティアをすることが目標です。どうぞよろしくお願ひ致します。

<<賛助会員各社の会員サービス内容>>

◆会員証の提示で、下記賛助会員企業より表記のサービスが受けられます。

賛助会員	住所	☎番号	会員サービス
カサ・デ・フジモリ関内本店	横浜市中区相生町1-25	045-662-9474	サングリア1杯無料
Bar Español	横浜市中区相生町2-43-2	045-651-1074	サングリア1杯無料
カサ・デ・フジモリ目黒店	東京都品川区上大崎2-16-3	03-5420-5328	サングリア1杯無料
アトリエ フレア Atelier Flair	鎌倉市大船2-17-8 中島ビル3F	0467-42-8531	押し花体験費用割引
スペインバル ボデガ・デ・サリア	東京都港区台場2-2-1 ザ・クルーズ・ダイアネックスホール1F	03-5531-2151	生ビール一杯無料

<編集後記> 本号は創立25周年記念4大イベントの最後を飾るスペイン大使館コンサートの特集です。多くの会員、関係者のご協力のもとに、これで全てのイベントが大成功裏に終わり少しホットしています。会報を当協会の活発な活動をご紹介するツールにすることで、協会の趣旨にご賛同頂いた新会員も増えており、今期は激務ではありましたがとてもやりがいを感じました。(広報担当 下山利明)

編集委員 石井加奈弘 白井慎一 古賀恵子 桜田ゆみ 下山利明 武菱邦夫 福長昭代 真木幸子 山崎宗城

*投稿寄稿宛先 E-mail: info@yokohama-spain.jp
横浜スペイン協会 URL <http://www.yokohama-spain.jp>

次回の原稿締切は
6月10日(金)です